

# 年頭所感

家村克行

1976年の新春を迎え一言ご挨拶申し上げます。浦幌町の社会教育施設の一つである浦幌町郷土博物館長に昨年7月1日に就任してから早くも6ヶ月の月日が流れた次第ですが、未だ博物館園活動の社会的役割すら把握しきれずいるところであります。

もとより博物館園活動は、資料の収集・保存・展示・調査・研究の5本の柱を機軸とし社会における生涯教育の中心的主柱として機能するのが本筋であると考えます。1951年に博物館園関係者の熱意と努力により「博物館法」の成立を見、社会教育の中における博物館園の役割と位置付けが明確となり、その後の館園活動に活力を与えて来たわけであります。しかし、ひとたび実施段階へ入ってみると、予算不足と人的不足により本来の業務が全うされないままに月日を費みせざるを得ないというのが実態であり、特に本館にあっては専任職員や学芸員の未配置により、博物館の機能を十二分に發揮することができず、考古・開拓記念物をはじめとする貴重な学術資料は死蔵化し、陽の目を見ることなく収蔵庫の奥に保管されているのが実情であります。

こうした傾向は、特に「北海道百年」を起点と

して設置された市町村の郷土館・郷土資料室等にこれらのことが多く見られていると思います。浦幌町郷土博物館もこれらの館園と同じく1969年に開館したばかりの若い館園で、これらの館園と同じような実情にあります。

しかしながら、幸いにも本館では1972年より館活動の一環として『浦幌町郷土博物館報告』の出版を続け、本号で第7号になるわけでありますがその間、関係各位より数々の暖いご教示・ご助言を賜わりその都度編集に生かしている次第ですが今後とも館報を続け、少しでも館資料並びに十勝地域を主体とした広い分野の短報・論文等の収録を企図していきたいと考えております。

博物館の扱う分野は、歴史・芸術・民族・民俗・産業・考古・自然科学・開拓記念物等多岐に亘りその専門性は増え深まり、単なる事務職員のみでは処理しきれない状態となり来館する研究者などに多大なご不便・ご迷惑をおかけしております。

1976年はこれらのことに対する配慮し、住民各位並びに関係者各位の希望に十分副えるよう尽力する所存でありますので、今後とも変わらないご支援・ご協力を願い申し上げて年頭所感といたします。

(浦幌町郷土博物館長)

## 浦幌町郷土博物館所蔵の阿部宏氏の蝶標本

円子紳一

前回の報告のときに、浦幌町郷土博物館に保存されている阿部宏氏の蝶標本について紹介したいと記したが、昨年秋友人の結婚式で偶然先生にお会いでき、その旨をお話ししたところ、快く承諾して下さいましたので、ここに報告することとした。

阿部先生の寄贈された標本は、1963年から1966年の4年間に採集されたもので、アゲハチョウ科

6種、シロチョウ科6種、ジャノメチョウ科6種セセリチョウ科5種、タテハチョウ科22種、シジミチョウ科17種の計62種から成っている。

これら62種の中で最も特筆すべきことは、1964年7月20日(常豊)のヒヨウモンチョウの採集であろう。本種は、北海道・本州に分布するが、北海道では大沼付近、帯広付近などの温暖地にしか産地が知られていない。また、浦幌町郷土博物館

報告第6号、松本尚志氏の報告でも上土幌・足寄・浦幌の記録があるが、陸別・本別では未記録となっていることからも、十勝管内でもその分布は局地的であるとも考えられる。ただ、その後の確認ができないのが残念である。

○ ○

### I. アゲハチョウ科 (*Papilionidae*)

#### 1. ミヤマカラスアゲハ

*Papilio maackii tutanus* Fenton

1966. 5. 10 (福山)

1966. 7. 20 (常室)

#### 2. カラスアゲハ

*Papilio bianor dehaani* C. et R. Felder

1966. 7. 25 (常室)

#### 3. キアゲハ

*Papilio machaon hippocrates* C. et R. Felderaeus

1965. 7. 10 (常室)

#### 4. アゲハ *Papilio xuthus* Linnaeus

1966. 5. 10 (福山)

#### 5. ヒメウスバシロチョウ

*Parnassius stuhendorffii hoenei* Schweitzer

1966. 6. 15 (常豊)

#### 6. ウスバシロチョウ

*Parnassius glacialis* Butler

1966. 6. 15 (常豊)

### II. シロチョウ科 (*Pieridae*)

#### 1. エゾシロチョウ

*Aporia cratigi adherbal* Fruhstorfer

1966. 6. 15 (常豊)

#### 2. モンシロチョウ

*Pieris rapae crucivora* Boisduval

1964. 5. 23 (常室)

#### 3. エゾスジグロシロチョウ

*Pieris napi nesis* Fruhstorfer

1963. 5. 23 (常豊)

#### 4. モンキチョウ

*Colias erate poliographus* Motshulsky

1964. 5. 25 (常豊)

#### 5. エゾヒメシロチョウ

*Leptidea morsei* Fenton

1963. 5. 23 (常豊)

#### 6. ツマキチョウ

*Anthocaris scolytus* Butler

1965. 5. 28 (常室)

### III. ジャノメチョウ科 (*Satyridae*)

#### 1. オオヒカゲ

*Ninguta schrenckii menalca* Fruhstorfer

1963. 7. 3 (常室)

#### 2. ウラジャノメ

*Lopinga achine achinoides* Butler

1963. 7. 3 (常室)

#### 3. クロヒカゲ

*Lethe diana* Butler

1963. 7. 3 (常室)

#### 4. ヒメウラナミジャノメ

*Ypthima argus* Butler

1964. 6. 7 (常豊)

#### 5. シロオビヒメヒカゲ

*Coenonympha hero neoperseis* Fruhstorfer

1964. 6. 7 (常豊)

#### 6. キマダラヒカゲ

*Neope goschkevitschii* Ménétriès

1964. 7. 9 (常豊)

### IV. セセリチョウ科 (*Hesperiidae*)

#### 1. キバネセセリ

*Bibasis aquilina chrysegelia* Butler

1965. 7. 22 (常豊)

#### 2. ミヤマセセリ

*Ergniss montanus* Bremer

1963. 5. 20 (円山)

#### 3. コキマダラセセリ

*Ochlodes renata herculea* Butler

1964. 8. 11 (常室)

#### 4. チヤマダラセセリ

*Pyrgus maculatus* Bremer. et Grey

1963. 5. 12 (常豊)

#### 5. オオチャバネセセリ

*Polytremis pellucida* Murray

1965. 8. 11 (常豊)

### V. タテハチョウ科 (*Nymphalidae*)

#### 1. キベリタテハ

*Nymphalis antiopa asopos* Fruhstorfer

1965. 9. 10 (円山)

#### 2. ルリタテハ

*Kanisha canace no-japonicum* von Siebold

? . 8. 11 (円山)

#### 3. コムラサキ

*Apatura ilia substituta* Butler

1965. 7. 31 (常室)  
4. クジャクチョウ  
*Inachus io geisha* Stichel  
1963. 6. 30 (常室)  
5. アカタテハ  
*Vanessa indica* Hebrst  
1965. 9. 16 (常室)  
6. ヒメアカタテハ  
*Vanessa cardui* Linnaeus  
1965. 8. 12 (常室)  
7. エルタテハ  
*Polygonia van-album samurai* Fruhstorfer  
1965. 8. 2 (活平)  
8. シータテハ  
*Polygonia c-album hamigera* Butler  
1965. 8. 2 (常室)  
9. コヒオドシ  
*Aglais urticae ocnexa* Butler  
1963. 7. 22 (常室)  
10. イチモンジチョウ  
*Ladoga camilla japonica* Ménéries  
1965. 7. 13 (常豊)  
11. アカマダラ  
*Araschnia levana obscure* Fenton  
1963. 5. 15 (常室)  
12. サカハチチョウ  
*Araschnia burejana strigosa* Butler  
1964. 5. 15 (常豊)  
1965. 6. 29 (常室)  
13. ミスジチョウ  
*Neptis philyra excellens* Butler  
1965. 8. 11 (常豊)  
14. コミスジ  
*Neptis aceris intermedia* W. B. Pryer  
1965. 5. 28 (常豊)  
15. フタスジチョウ  
*Neptis rivularum* Fruhstorfer  
1965. 6. 20 (常室)  
16. ホソバヒョウモン  
*Clossiana thore jezoensis* Matsumura  
1964. 6. 1 (常豊)  
17. コヒョウモン  
*Brenthis ino tigroides* Fruhstorfer  
1964. 7. 2 (常豊)
18. ヒョウモンチョウ  
*Brenthis daphne rabdia* Butler  
1964. 7. 20 (常豊)  
19. オオウラギンスジヒョウモン  
*Argyronome ruslana lyssipe* Janson  
1965. 8. 10 (常豊)  
20. ミドリヒョウモン  
*Argynnis paphia geisha* Hemming  
1965. 8. 2 (常室)  
21. クモガタヒョウモン  
*Argynnis anadyomene midas* Butler  
1963. 6. 10 (常豊)  
22. ウラギンヒョウモン  
*Fabriciana adippe pallescens* Butler  
1965. 6. 29 (常豊)
- VII. シジミチョウ科 (*Lycaenidae*)  
1. アカシジミ  
*Japonica lutea* Hewitson  
1963. 8. 10 (常室)  
2. オナガシジミ  
*Araragi cnthea* Janson  
1963. 7. 20 (常室)  
3. ミズイロオナガシジミ  
*Antigius attilia* Bremer  
1963. 7. 20 (常室)  
4. ウラゴマダラシジミ  
*Artopoetes pryeri* Murray  
1963. 7. 10 (常豊)  
5. ウラミスジシジミ  
*Wagime signata* Butler  
1963. 7. 18 (常室)  
6. ヒメシジミ  
*Plebejus argus micragus* Butler  
1963. 7. 14 (常豊)  
7. ツバメシジミ  
*Everes argiades hellotia* Ménéries  
1963. 5. 18 (常室)  
1963. 7. 9 (常豊)  
8. カバイロシジミ  
*Glaucoopsyche lycormas* Butler  
1964. 6. 18 (常豊)  
9. トラフシジミ  
*Rapala alata* Bremer  
1963. 6. 22 (常室)

10. コツバメ  
*Ahlbergia berrea* Butler  
 1964. 5. 10 (常室)
11. ジョウザンミドリシジミ  
*Favonius cognatus* Shirôzu  
 1963. 7. 9 (常室)
12. エゾミドリシジミ  
*Favonius jezoensis* Matsumura  
 1965. 7. 12 (常室)
13. オオミドリシジミ  
*Favonius orientalis* Murray  
 1965. 7. 22 (常室)
14. メスアカミドリシジミ
- Chrysozephyrus smaragdinus* Bremer  
 1963. 7. 25 (常室)
15. ミドリシジミ  
*Neoyeophrys tovzila japonicus* Murray  
 1963. 7. 7 (常室)
16. カラスシジミ  
*Strymonidia w-album fentonii* Butler  
 1963. 7. 25 (常室)
17. ベニシジミ  
*Lycaena phlaeas daimio* Seitz  
 1964. 6. 7 (常室)

(浦幌町農業協同組合農産課勤務)

## 浦幌町における蝶類の出現期

### 円子紳一

浦幌町に生息する蝶類については、すでに浦幌町郷土博物館報告第2号(1973年)、第6号(1975年)でそのほとんどが報告されている。(円子1973、松本1975)ほとんどと記したのは、まだ発見される可能性のある種があるからである。

さて、今回は報告というよりは断片的ではあるが、過去5年間の調査で得た記録に基き、浦幌町に於ける蝶類の出現期について推察してみた。

普通、私達の生活の中で蝶類の姿を認識するのは、ワラビ採りも終りに近く、野山に草花が咲き乱れる頃から秋祭りまでの間ではないだろうか。誰もが戸外に出て生きていることの喜びを、短かい北国の夏を満喫している時には、自分の廻りを見つめることができる。しかし、冬になると人々は家の中に閉じ籠ることしか考えなくなる。そして何時しか虫達のことを忘れている。

余談はさておき残雪の3月末に、クジャクチョウが姿を現わす。これは単年度だけの記録ではなく、1971・72・74年の3ヶ年の記録である。中でも1971年は3月22日と現在までの最も早い記録を残している。他の種の出現がそれほど早くなかつたことからも、この年の冬が特別暖かかった訳でないと思う。

エルタテハも3月末に出現しているが、これは

1974年3月31日の記録である。ここで注目したいのは、3月下旬に出現しているのはこの2種だけだということである。しかも、共に越冬態は成虫である。しかし、これだけで成虫で越冬するから発生が早いと考える訳にはいかない。浦幌に産する蝶で成虫越冬するのは、両種の他にシータテハ、アカタテハ、キベリタテハ等6種がいる。これらは5月中旬を過ぎなければ出現していない。むしろ蛹で越冬するモンシロチョウより遅いのである。なぜそうなるのかは、残念ながら筆者の持ち合わせている資料からは、知ることができない。

ただ筆者の推測であるが、休眠と温度の関係が考えられる。いわゆる越冬するということは、休眠状態に入ることである。この休眠を覚ますのは脳が温度変化により活性化され、脳ホルモンの分泌が盛んになるからと考えれば、同じ成虫で越冬しても、種個々の条件に合った気温になるまで活動しないだろうし、それが出現期のずれ込みになるだろうと考えられる。ともあれ推測である。

今までに浦幌で採集された蝶は、浦幌町郷土博物館報告第6号で松本尚志氏が報告している通り80種近くになっている。これらの全てについて一度に載せるには無理があるので、数回に分けて話したいと思う。今回は、本町産で最も大形のア